みやこ町歴史民俗博物館

博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.102

平成26年10月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL0930-33-4666

お知らせ

改修工事にともなう長期休館について

改修工事の実施にともない、当館は、10月1日から、来年11月2日まで休館いたします。

この間、皆さまにはご不便をおかけいたしますが、博物館・文化財業務は、仮事務所を左記に設けて、各種のお問合わせ等に対応いたします。ご理解、ご協力のほどお願いいたします。

◎**休館する期間**
平成26年10月1日(水)
～平成27年11月2日(月)
※休館期間が変更となる場合があります。

◎**博物館仮事務所の設置場所**
みやこ町役場豊津支所2階
(201会議室)

順路
豊津支所正面玄関を入り→すぐ左の階段をあがる→2階まで階段をのぼりきった突当りの部屋

◎**電話**
0930-33-4666
※現在使用している博物館の電話番号と同じです。

◎**その他**
・仮事務所での業務開始は、10月6日(月)からです。
・休館中、歴史講座やイベント開催の場合等を除き、博物館職員は土・日・祝日の勤務を行っておりません。各種お問合わせ等は、平日での対応となりますことをご了解ください。

歴史講座の開催場所について

現在、当館にて実施しています歴史講座(古典かな講座・古文書講座・金曜古文書講座・みやこ学講座)は、休館中、みやこ町役場豊津支所別館1階会議室で実施いたします。開催曜日・開催時刻に変更はありません。お車は豊津支所前の駐車場にとめてください。

博物館友の会事務局について

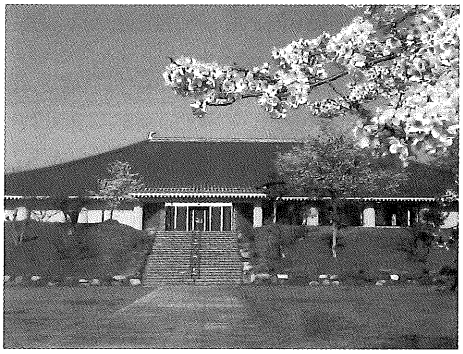
博物館友の会事務局も、豊津支所2階の仮事務所に移転いたします。友の会に関するご用件は、☎33-4666(博物館仮事務所)までお願いします。

「博物館だより」の隔月発行について

平成6年9月以来、毎月発行を続けてきた「博物館だより」ですが、休館中は隔月の発行となりますことをご了解ください。次回の発行日は12月1日です。

工事期間中博物館の敷地には入れません

議会承認等、工事契約に必要な手続きが完了した場合、10月中には工事の開始を予定しています。工事が始まる前に、博物館の敷地には、安全のため囲いが設けられ、工事関係者以外、敷地内に入ることはできなくなります。周辺住民の皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご了解くださいますようお願いいたします。



▲リニューアル後に、またお会い致します

イベント情報

みやこ町古墳まつり開催！

来る10月18日(土)、13時からみやこ町中央公民館(犀川本庄)を会場に第2回「みやこ町古墳まつり」が開催されます。

子どもも大人も楽しめる複合学習イベントで次のようなメニューを楽しめます。

問合せは博物館(電話33-4666)まで。

①「こども古墳文化体験」
ふるさと文化紙芝居「豊の国タマ・玉ものがたり」や勾玉づくり体験(定員30名)を楽しめます。参加費として一人につき一〇〇円が必要です。
時間：受付12：30(開始13時～)
場所：2階　視聴覚室

②特別講演会「古墳時代の北部九州」
古墳から見た古代王権研究の第一人者・広瀬和雄先生(前国立歴史民俗博物館教授)による、最新の研究成果講演です。
時間：13：30～15時
場所：1階　講堂

③「歴史たんけん作文」「私の町の過去・現在・未来絵画」コンクール入賞作品展示・表彰式
夏休みに町内外の小～高校生から募集した歴史ゆかりの絵画・作文のコンクール入賞作品の展示と表彰式を行います。
時間：13時～(表彰は15：15～)
場所：1階ホール・講堂

みやこの歴史発見伝79

再録版

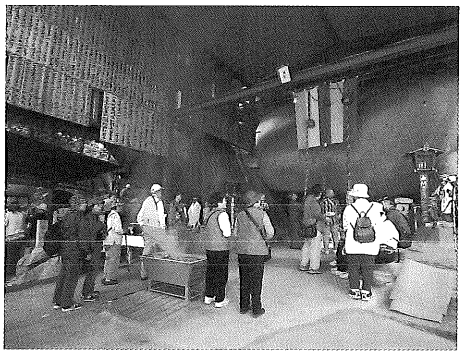
「胸の観音」とその伝説

胸の観音

みやこ町勝山黒田の鹿ケ峰は、標高二三〇メートルほどの小山ですが、別名を観音山と言い、その名のとおり中腹には「胸の観音」と呼ばれる天台宗の寺院（観音寺）があります。この「胸の観音」は、とくに胸部疾患の治癒に利益があるとされ、五月と十月の大祭は多くの参拝者で賑わいますが、地元ではその信仰の由来にまつわる、次のような伝説が語り継がれています。

伝説

「その昔、延永（現行橋市）には広大な田畑を持つ長者が住んでいました。ある年、この地域がたいへんな旱魃に見舞われた時、延永長者は何とかしようと小松ケ池に住む龍神に、末娘の早苗と引替えに雨を降らしてくれるよう頼みました。龍神はその願いを聞き入れて雨を降らせ、おかげで田畑は潤いましたが、約束どおり早苗は龍神に差し出されることになりました。約束の日、早苗は多くの村人に見送られ、小松ケ池に向かいます。池に着くと、荒波が立ち龍神が襲いかかってきましたが、早苗は持って来た観音経を唱え、一巻読み終えるごとにそれを針でとじ、池に投げ入れました。すると経巻を飲み干した龍神が観音経の法力と針の痛みに耐えかねて死んでしまい、早苗は難を逃れたのです。しかし、その帰り道、鹿ケ峯の麓で龍の毒気にあてられたのか、突然早苗は胸の痛みを訴え、ついには息を引き取ってしまいました。村人たちは不憫な早苗の霊をなぐさめるため、彼女が息絶えた鹿ケ峯の岩窟に観音像を安置し、以後、胸の観音として信仰したのです。」



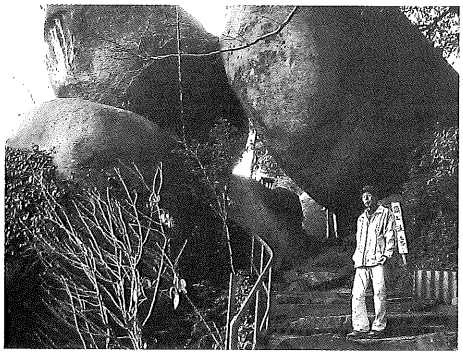
▲胸の観音。巨大な岩窟の奥に本尊が安置される

この「胸の観音」伝説には、細かな点で場面設定の異なるものが数種類伝えられていますが、基本となるストーリーはどれも同じです。言うまでもなく、伝説と歴史の混同は「ご法度」であり、そのことは「胸の観音」伝説でも同じです。また、類似した物語は各地に伝えられており、広く見れば、内容的に取り立てて珍しいものでないことも断っておきたいことです。そのうえで、「胸の観音」伝説のタネ（種）を探してみました。

伝説のタネ～巨石信仰～

「胸の観音」は巨大な花崗岩が積み重なってできた岩陰に祀られています。鹿ケ峰にはこのような巨大な花崗岩をいくつもみることができますが、「胸の観音」を祀っている岩陰のそれは特に大きなものです。日本人は、古くから巨石や巨木に神が宿ると考えていましたが、「胸の観音」の場合も、そもそもは岩陰をつくる巨石が信仰の対象だったとも考えられます。

この鹿ケ峰の岩陰には、いつの頃からか観音像が祀られ、また等覚寺（現苅田町）の山伏が修行を行なう霊場ともなって「（鹿ケ）峰の観音」と呼ばれるようになったといいます。そして「峰の観音」が、いつしか霊験あらたかな「胸の観音」に変化したわけです。想像ですが、胸の病に効くという「効能」が流布した背景には、庶民の医療にも深くたずさわった山伏の存在があったのではないでしょうか。いつの間にか「ミネの観音」が「ムネの観音」にすり変わったのも、もしかして山伏たちの仕業では…。

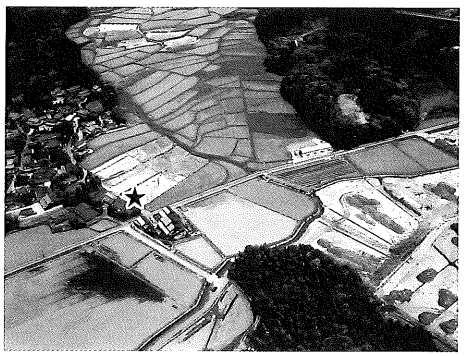


▲巨石があちこちに見られる「奥の院」一帯

伝説のタネ～古く巨大な池の記憶～

「胸の観音」参拝所のかたわらには小さな祠があり、中には長さ約一mで断面がU字形の木製品が安置されています。この木製品は「胸の観音」西側に位置するみやこ町勝山池田地区で大正八年（一九一九）に行なわれた耕地改修工事の時に出土したもので、その形状から考えて、水を送るための「木樋」とみられています（同じような樋材が十八世紀前半にも出土しています）。また、木樋が出土した水田の近くには、池の堤跡と見られる盛土が確認され、池田という土地が「池の埋りて田となりし所」（『郡典私志』）との言い伝えを思い起こさせる発見が続きました。さらに、平成十一年度と十三年度に池田地区の圃場整備事業にともなって発掘調査が行われ、池の取水口跡がほぼ完全な形で発見されました。調査の結果、その構造は、国内最古（七世紀）とされる狭山池（大阪府狭山市）のものに酷似していることが分かり、はっきりとした築造年代の確定にまでは至っていないものの、この遺跡が、相当に古い土木技術を用いて造った、巨大な池の遺構であることが判明したのです。

伝説と歴史の混同は「ご法度」にしても、はるか昔に作られた、この巨大な池の記憶のようなものが「胸の観音」伝説の中に投影されているのではないか、と想像してみるのも面白いように思います。



▲上空からみた池田遺跡。★印が木樋出土地点